広島民報

2020年 7月5日 第2570号 月3回刊 日曜日発行

発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11／電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月 240円(送料126円)／1部 80円
郵便振替 01330-2-34778

© 広島民報社 2020年

西日本豪雨から2年
「災害に備えるつどい」
日本共産党広島市安佐北区後援会

広島県で149人が犠牲（うち災害関連死40人）となった2018年7月6日の西日本豪雨災害から2年にあたり、日本共産党広島市安佐北区後援会は6月21日、安佐北区総合福祉センターで「災害に備えるつどい」を開催しました。14年8月20日の広島北部土砂災害に続いて西日本豪雨災害と、この間2度も大きな被害を受けた安佐北区の被災者支援と災害対策の改善を求めようと、約20人が参加しました。

被災者3人が発言し、藤井敏子市議と清水てい子党安佐北区委員長が報告。清水委員長は「コロナ禍のなか、体育館には冷暖房がないので、安心して避難できる状況とはいえない。無駄な大型公共事業をやめて、防災を優先させてほしい」と訴えました。

参加者は「日頃から地域をよく知っておくことが大事だ」「避難場所は人権が保障されるよう、温かい食事が出るイタリアのような避難所がいいね」と意見交流。出された要望をとりまとめ、市と交渉することを確認しました。

報告する清水委員長＝6月21日、広島市安佐北区

広島市議会一般質問
コロナ危機の支援など要求
日本共産党・中原洋美議員

広島市議会の6月定例会で12日、日本共産党を代表して党市議団長の中原洋美議員が一般質問に立ちました。

6月定例会では、国が第2次補正予算で可決したコロナ対策に関連した支援の追加予算を計上。さらに、今後10年間の市政の基本的な方針を決める「基本構想」と「基本計画」も議題となりました。

党市議団は、5月に実施した「新型コロナウイルスに関するアンケート」に書き込まれていた困窮する市民生活の実態や要望を届け、感染症防止にむけた医療・検査体制の充実とともに、健康と暮らし、営業を守る自治体の役割を果たす独自支援策を求め論戦。中原議員は一般質問で、①被爆75年の被爆地の責務について②コロナ危機を乗り越え新しい社会を③就学援助の基準額の適正化について―の柱で質問しました。

一般質問に立つ中原議員＝6月12日、広島市議会

コロナ危機を乗り越え新しい社会を

党市議団のアンケートには「店の廃業が先か首を切られるのが先か」「コロナでは死なないのか。なぜ聞こうとしないのか。「克行氏の顔に泥を塗ってはならない」と話す議員までいたと言います。

うそをつき、困っている人たちに寄り添えない人間に、議員の資格など毛頭ありません。現金を受領した議員も全員即刻辞職を。

同時に「政治家一般」の話では決してありません。自民党がおこなった買収行為であり、日本共産党は金権政治根絶へ一貫してたたかってきた政党だということも、この機に思いきって広げねば。「このままの政治ではいけない」と声を上げる市民とともに。

比例中国
大平よしのぶ 奮戦記

広島のいつもの朝の光景。友だちや同僚、近所の方とあいさつに続いて交わす話題は大体、天気のことと前日のカープの試合結果ですが、最近はさらにもう一つ、「河井夫妻買収事件」が付け加わりました。

連日次から次へと新しい事実が明らかになり、まさに前代未聞の大事件となっています。

税金である政党助成金が原資とも言われており、広島県下の首長、県議、市町議員ら数十人に50万円、100万円と次々とばらまかれました。

河井夫妻の即刻辞職、安倍首相と自民党本部の任命責任と説明責任はもちろんですが、同時に受けとった議員らの態度も本当に許せない。中には「違法なお金とわかっていた」「すべて生活費として使った」と語る議員もいたとの報道に、読んでいた新聞を叩きつけました。

先日も広島市西区天満町の商店街を軒並み訪問しました。花屋の店長さんは「歓送迎シーズンのかき入れ時にコロナで、売上は5割どころか8割減。6月もジューンブライドで結婚式がたくさんあるが今年はさっぱりで本当にきつい」と。畳屋にも2軒伺いましたが「ただでさえ売れなくなっていたところにコロナでもうお手上げ状態」と口をそろえて語ります。商店のあちこちから「雇用調整助成金を申請しているがなかなか入金されない」「1人10万円もいまだに届かない」「家賃支援の申請はまだ始まらないのか」と怨嗟の声があがります。

安倍首相と自民党の責任は重大

この声、この実態があなたたちには聞こえないのか。なぜ聞こうとしないのか。「克行氏の顔に泥を塗ってはならない」と話す議員までいたと言います。

うそをつき、困っている人たちに寄り添えない人間に、議員の資格など毛頭ありません。現金を受領した議員も全員即刻辞職を。

同時に「政治家一般」の話では決してありません。自民党がおこなった買収行為であり、日本共産党は金権政治根絶へ一貫してたたかってきた政党だということも、この機に思いきって広げねば。「このままの政治ではいけない」と声を上げる市民とともに。

くても生活苦で死ぬ」「子ども2人は休校で親は仕事を失った」「マイホームのローンが支払えないので家を売るしかない」との悲鳴が寄せられています。

中原議員は、国の一回限り10万円の特別定額給付金は遅いし、足りないとの声や、家賃給付が8月では廃業するしかないなどの実態を示し、生活と営業を支える継続的な現金給付を要求。しかし、市はコロナにより収入減となった事業者への支援について「共助」を理由に実施を拒否しています。

コロナ危機が長期化するといわれるなか、感染症と大規模自然災害との複合災害の危険をどう防ぐかも急がれる課題です。中原議員は、新たな避難所として旅館やホテルなどを位置付けることを提案。市は、学校の教室を避難所とし、教室内にテントを張ることで「3密」をさける方針を示しました。

就学援助の基準を生活保護基準の1・3倍に

市は今年2月、「行政経営改革推進プラン」を発表し、「就学援助制度の適正化」の方針を示しました。約2万7500人の子どもたちが利用する就学援助制度の支給額は21億円で、市は歳出削減をねらい、収入基準額を生活保護水準と同等に引き下げようとしています。

中原議員は「『適正化』するなら、現行の生活保護基準が極めて低く抑えられていることを考えると、少なくとも生活保護基準の1・3倍を就学援助の認定基準とするのが『適切』である」と提案。市はコロナ対策に力を傾注しており、「適正化」の検討は中断していると答えました。

地下水

Xデーはいつか？ 河井疑惑は国会が終わった次の日、前法相と現職議員夫妻の逮捕という憲政史上初の一大事件になりました。議員本人が封筒に入れて現金を配っていた。94人に2570万円、額にも規模にもびっくりです◆「2人だけの秘密だからね」とポケットにねじ込まれた。「名刺代わりに」と封筒を置いて帰った。「おめでとう」と言われて。「大丈夫だから」と。極めつけは「安倍さんから」と言われた。相手をみて巧みに現金を渡す。何処でこんな手練を身につけたのでしょうか◆丸刈り坊主で現れた市長は「深く反省し…、私の不徳のいたすところ」「今後の進退は市民の声を聞いて判断したい」。坊主頭になれば何でも許してもらえると思っているのか。一昔前の感覚にあきれます◆河井夫妻は所詮トカゲのしっぽ？ 「大騒ぎするような大物でもない」と自民党幹事長。広島の恥は全国に知れ渡りました。ウミは出し切りましょう。主権者は私たちです。名誉挽回は次の選挙です。（や）